今　城　遺　跡

1　9　9　1

前橋市教育委員会

例　　言

1．本書は富田町におけるバラ温室団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書である。

2．本遺跡は前橋市富田町1751－3内に所在する。略称（3E－25）。調査面積は90㎡である。

3．発掘調査は、前橋市教育委員会が実施した。調査期間は平成3年6月17日から7月3日である。

（調査）井野誠一・新保一美(文化財保護課)、飯島勝亥・渡辺登美子・大渕友子・小泉まさ江・清塚正之（マサノ）

（整理）飯島勝亥・大塚義智子・柴崎まさ子・赤城美代子

4．調査時には、農政課、バラ温室団地組合、荒砥農協、群馬県農業公社のご協力を得た。

5．関係図面及び遺物の保管は、前橋市教育委員会文化財保護課が行なっている。
整理作業中に綿貫綾子氏（群馬町教委）のご指導、ご協力を得た。

凡　　例

1．土師器使用の竪穴式住居跡はHを略称とする。

2．遺構、遺物の実測図の縮尺は次の通りである。
遺構　1/60、　遺物　1/4、　全体図　1/2500

目　　次

例　言
凡　例
目　次　　頁
I　調査の経過……1
II　遺跡の立地と環境……4
III　遺構と遺物……4
1．竪穴式住居跡……4
2．出土遺物……4
IV　まとめ……7

図　版……8

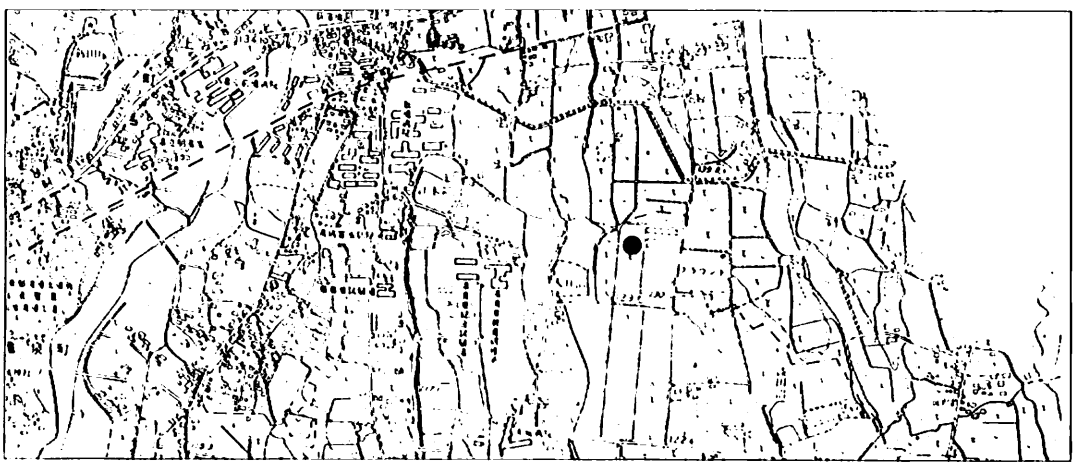
I　調査の経過

本遺跡地は、富田バラ温室団地組合がバラ温室団地を造成しようとしたところである。平成3年5月21日に表面調査を実施したところ遺物の散布がみられたため、基礎工事において削平をうける部分について5月30日に試掘調査を実施したところ住居跡2棟が検出された。この2棟について、平成3年6月17日～7月3日にかけて調査を実施した。検出面は表土下約80cmであり、削平をうけない部分にも遺構の可能性はあるが、盛土保存の状態として調査対象から外した。

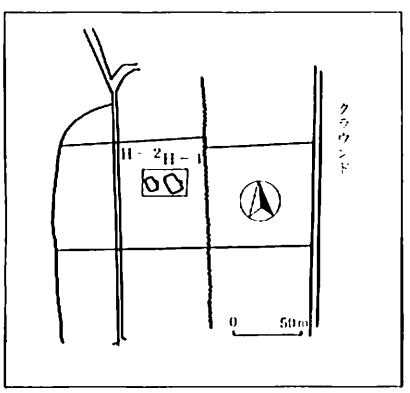
II　遺跡の立地と環境

今城（ゲンジョウ）遺跡は、前橋市東部の富田町の北端で、大胡町足軽に接する地にある。赤城よりの小河川が低い谷と南北に長い丘を作っている。用水の完成により谷は水田になっているが、丘はほとんどが桑畑である。今城遺跡はその丘の上に位置するが田くは山になっており、通るのもさびしい地であったとのことである。

開墾後も土の移動はあまりなかったようで、耕作土60cm下にFPを含む黒色土が20cm堆積しその下に住居跡が検出されたが、住居跡は壁高が70cmと高く、あまり削平をうけていないと思われる。



遺跡位置図



遺跡全体図

周辺の遺跡をみると、南西1kmに萱野団地遺跡、南東1.kmに富田遺跡群が位置する。古墳時代から奈良・平安、中近世まで遺跡が連続して存在している。

本遺跡は奈良時代（8世紀中）の住居跡が検出されているが、いずれも規模の大きなものである。例の少ないものであるが、西2kmの沼西II遺跡（堤町）でも検出されており、集落との係りで今後の研究課題になるものと考えられる。

III　遺構と遺物

1　H－1号竪穴住居跡

規模も大きく、多様な遺物が出土した。現壁高は47cmであるが、掘削前は深く、70cmと考えられる。

東西4.9m、南北6.1m、面積は29.9m²と広い。カマドは東壁中央で、煙道の傾斜もやや急である。壁高は高く、しっかりしている。

遺物は多様で、中央部中位より鉄のクワ、床面より銅製品、その他坏、椀、壺、ふたが出土している。一部9世紀のものも含むが、ほとんどが8世紀中頃と考えられる。

埋土をみると、比較的短期間で埋まった様子であり、遺物の残存も多かったが、床面より出土の遺物は少なく、埋土中位層より出土のものが多かった。

床面に柱穴は4基、方形に配されている。深さは43～83cmと深いものが多い。周溝は西～北、東の北半で確認された。巾は10cm前後であまり差はみられなかった。

床面は全面均一で、固くしまっていて検出も容易であった。

2　H－2号竪穴住居跡

H－1号より一回り規模は小さいが、東西4.6m、南北5.4m、面積24.8m²と比較的規模の大きい住居跡である。遺構確認時の特長としては、ローム面に黒色土の長円形の跡がみられ、その中にBの灰層、軽石層がドーナツ状に確認された。地層断面からみても、土層が円形、レンズ状に推積したことがわかった。B軽石層は最上層で検出されている。

カマドは東壁中央で作りも大きく、切り石の袖石が検出されている。

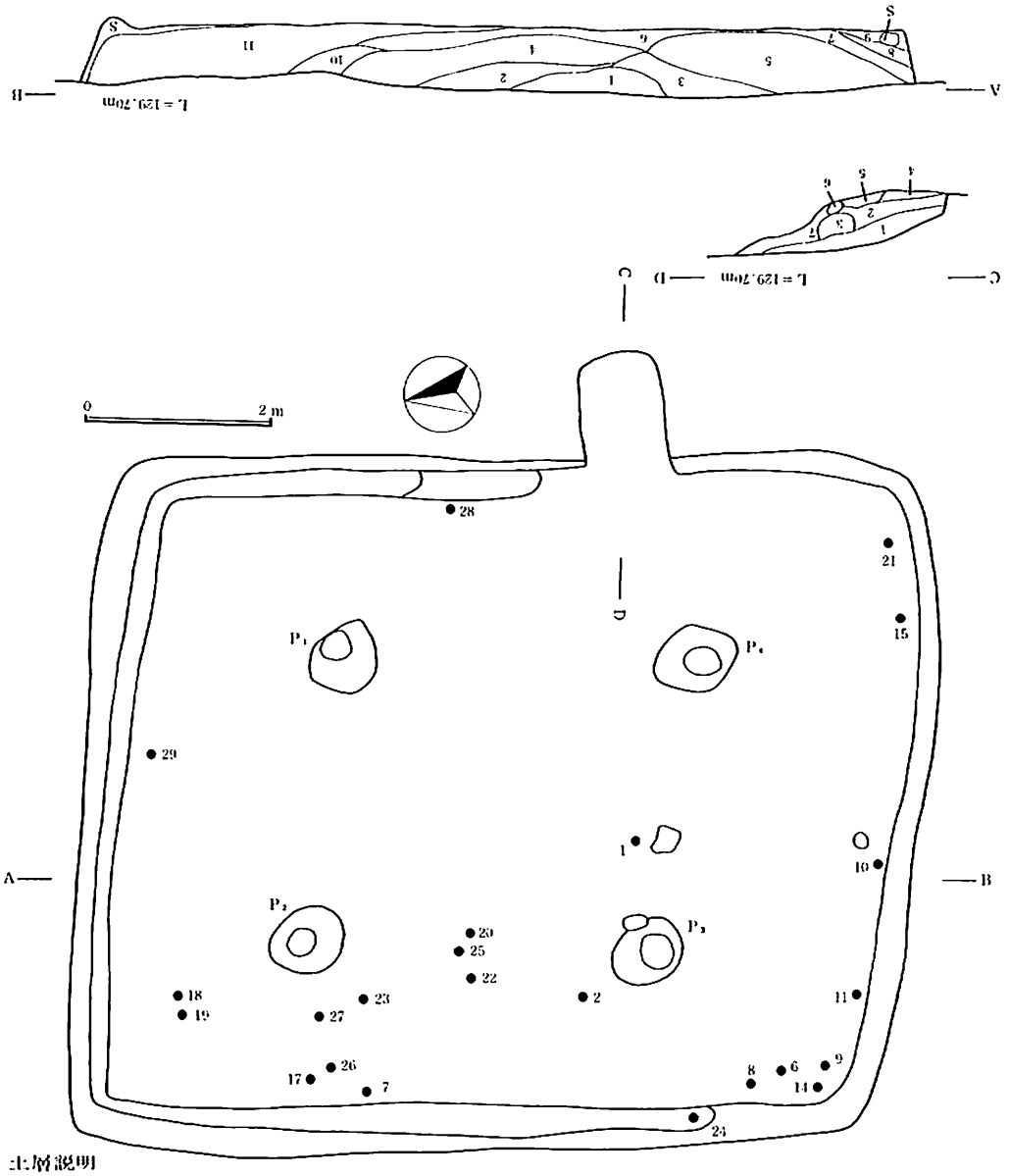
床面は南～西にかけて固い面がみられた。

北東隅に方形のPitと重複がみられた。一部Bの灰層があったことからみると、住居埋没後のもので、住居跡とは別のものか。

床面に柱穴は3基が確認された。北東隅は方形の土坑と重複するので失なわれたものか。深さは41～66cmと深い。住居の規模によるものか。また、形状が細長いもの、ピットが二つ連なるものなど建て直しを想定させる点がみられる。

遺物は、土層がB軽石層を含むが、H－1号とほぼ同時期のものであり、同時に存在した可能性が高い。住居が失なわれたあと比較的あとまで住居部分が窪みとして残っていた可能性がある。周辺まで調査が及ばないため不明な点が多いが、H－1（H－2）を主屋とする建物群が存在する可能性がある。

H－1号 竪穴住居跡

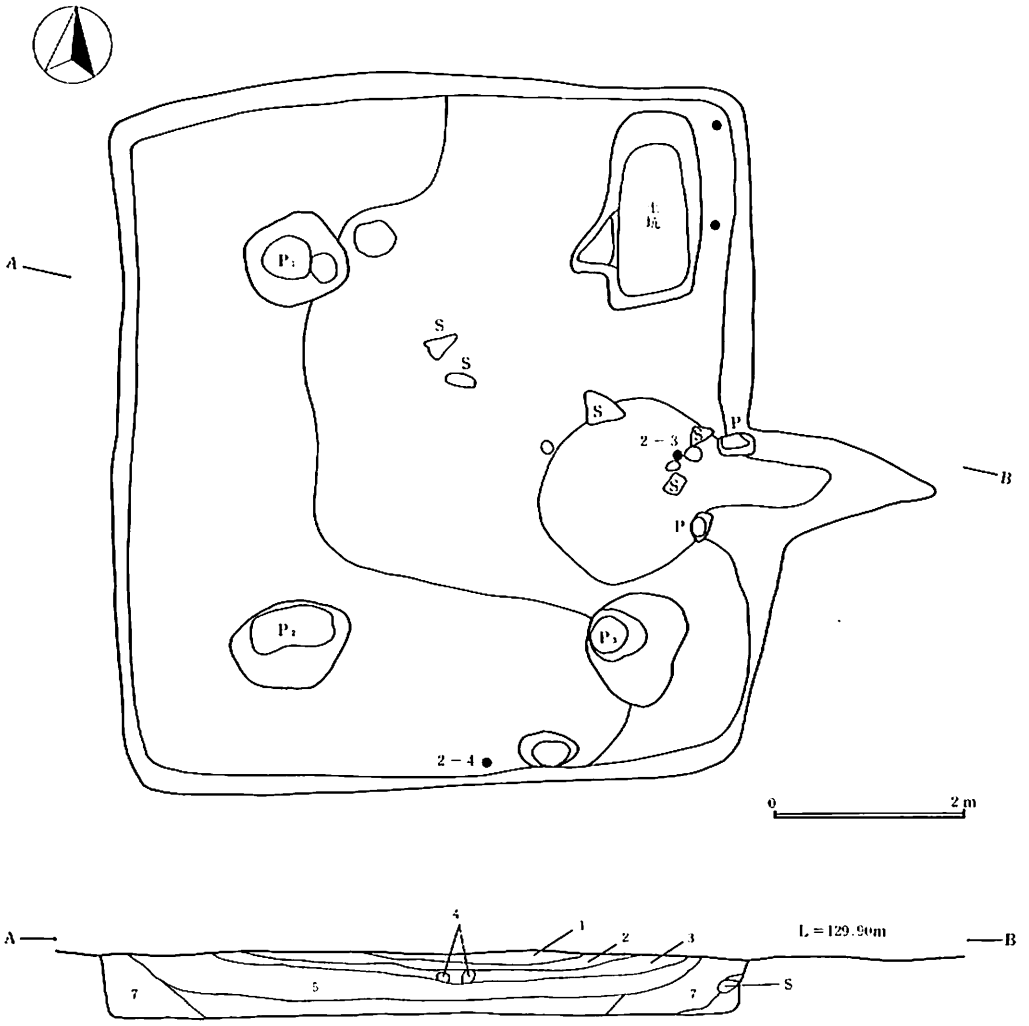


土層説明

（南北）　1．黒褐色土と灰褐色粘土の混土。焼土ブロック、炭化物多い。
2．黒色土と黒褐色土の混土。炭化物まじる。
3．2に似る。焼土ブロック少しまじる。
4．黒色土に少し黒褐色土。混土。
5．茶褐色土に暗褐色土混土。ロームブロック多くまじる。
6．5に似る。
7．黒色土。少しロームまじる。
8．茶褐色土。
9．黒色土。
10．5に似る。
11．黒褐色土。

（カマド）
1．黄褐色粘質土。
2．暗褐色粘質土。灰がまじる。
3．焼土と粘土の混土。
4．灰。
5．焼土。
6．焼土ブロック。
7．2に似る。下に1層に近い土が多い。

H－2号 竪穴住居跡



土層説明

1．B軽石まじりの黒色土。

2．B灰層と黒色土の混土。

3．B軽石に黒色土わずかにまじる。

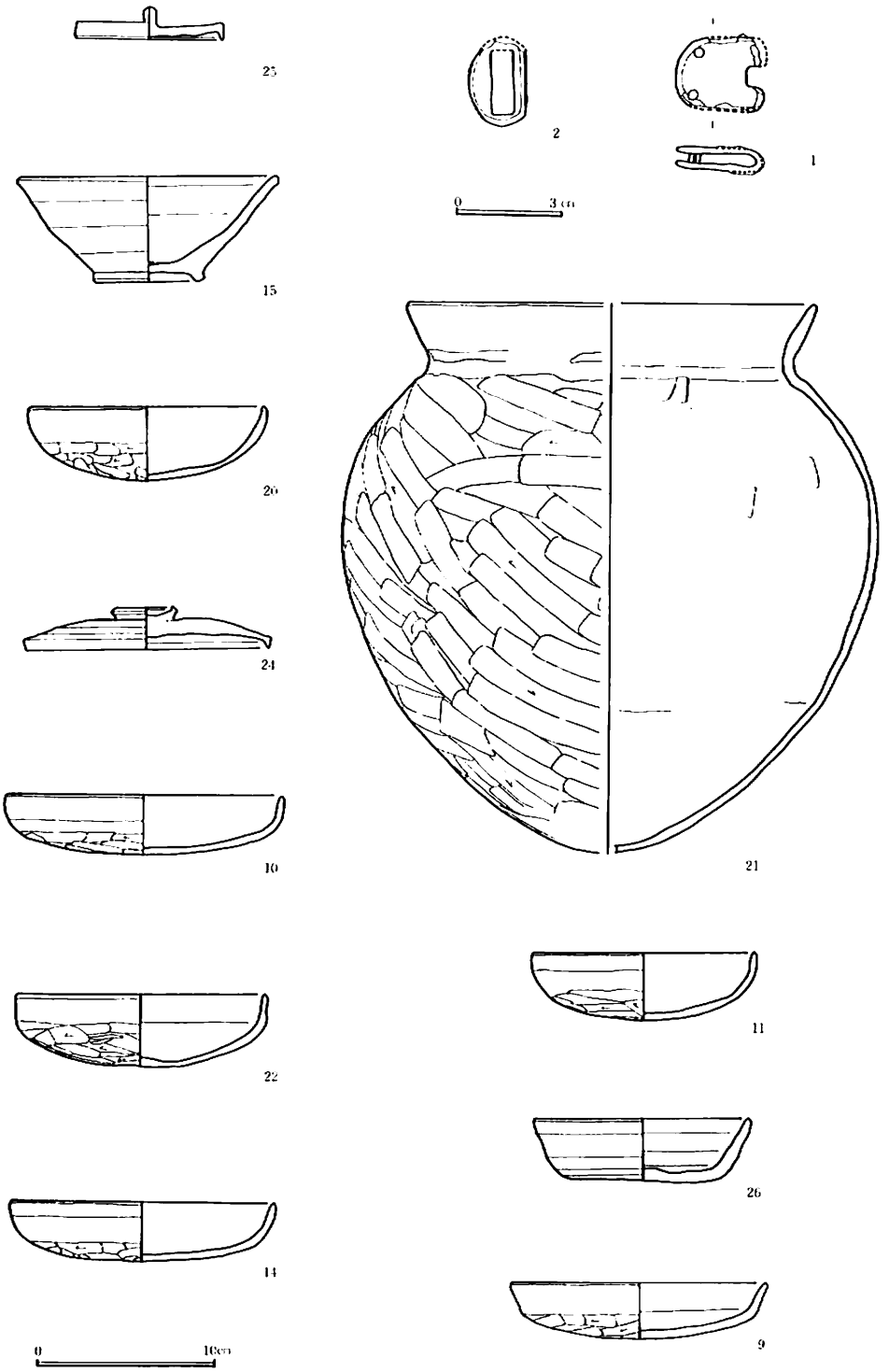
4．B軽石。

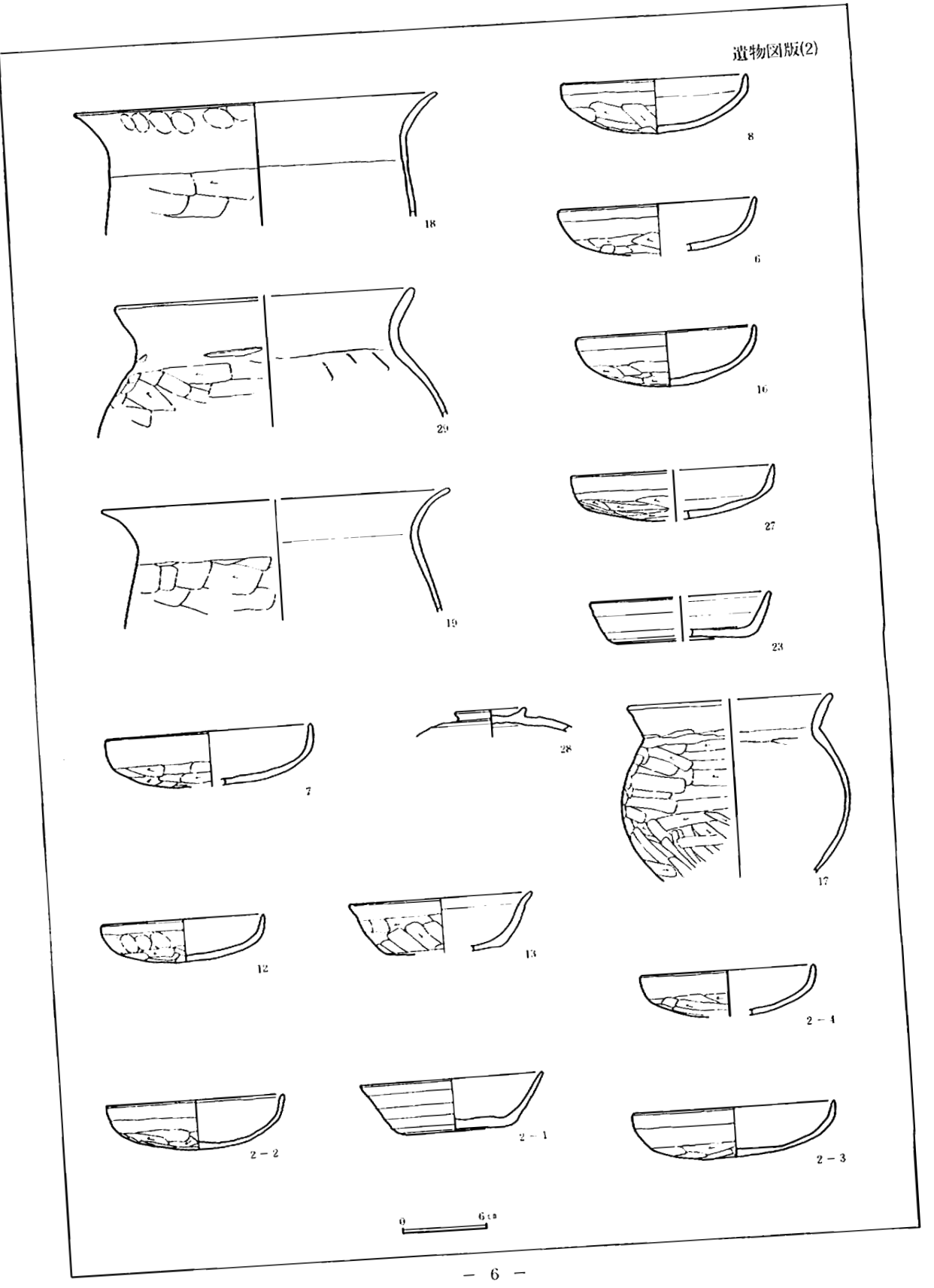
5．黒色土。FPを含み、やや固くしまる。

6．黒色土と茶褐色土の混土。

7．褐色土。

遺物図版(1)




18
8
6
29
16
27
19
23
7
28
17
12
13
2－4
2－2
2－1
2－3
0
6cm

遺 物 観 察 表

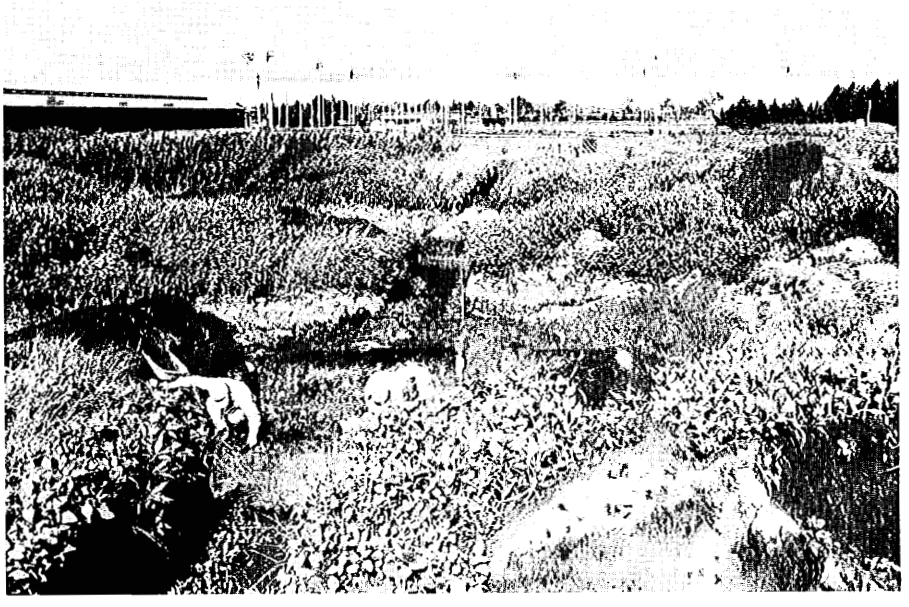
番号	器種	法量(①器高 ②口径 ③底径cm)	技法等	胎土	①色調 ②焼成 ③残存度
1	銅製品	2.5×2.1×0.8	銅製、折り返えして、鋲止め	鉄尾	
2	銅製品	2.5×1.6×－	銅製、切り抜きの二枚あわせ、鋲止め	丸粕	
6	土師坏	①3.6 ②13.7	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 30%
7	土師坏	①3.8 ②14.5	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 40%
8	土師坏	①3.8 ②13.0	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	黒 褐 色 良 50%
9	土師坏	①3.8 ②14.2	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗茶褐色 良 40%
10	土師坏	①3.4 ②15.6	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	密	茶 褐 色 良 50%
11	土師坏	①3.9 ②12.4	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 50%
12	土師坏	①3.0 ②11.5	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 40%
13	土師椀	①3.9 ②13.0 ③8.1	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗茶褐色 良 50%
14	土師坏	①3.3 ②14.8	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 30%
15	土師椀	①6.0 ②14.3 ③5.8	口縁横ナデ、胴、底部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 60%
16	土師坏	①3.8 ②12.6	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 40%
17	土師甕	①12.5(現) ②14.4	口縁横ナデ、胴部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 30%
18	土師甕	①8.6(現) ②25.7	口縁横ナデ、指圧調整、胴ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 20%
19	土師甕	①8.5(現) ②24.6	口縁横ナデ、胴ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 10%
20	土師坏	①4.2 ②13.2	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 70%
22	土師坏	①4.1 ②14.0	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	密	茶 褐 色 良 90%
23	須恵椀	①3.1 ②12.6 ③9.1	内・外面ナデ調整	密	黒 灰 色 良 50%
24	須恵蓋	①2.4 ②13.9	内・外面ナデ調整	密	灰 黒 色 良 完形
25	須恵蓋	①1.8 ②8.3	内・外面ナデ調整　自然釉	密	灰 黒 色 良 80%
26	須恵椀	①3.6 ②12.2 ③8.2	内・外面ナデ調整	密	灰 黒 色 良 50%
27	土師坏	①3.6 ②14.2	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	密	暗かっ色 良 70%
28	須恵蓋	①1.6(現) ②10.7(現)	内・外面ナデ	密	灰 黒 色 良 30%
29	土師甕	①8.8(現) ②21.1	口縁横ナデ、胴、ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 20%
2－1	須恵椀	①3.8 ②12.9 ③7.4	ナで調整、底部糸切り、ヘラ	粗	灰 褐 色 良 70%
2－2	土師坏	①3.5 ②12.6	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 60%
2－3	土師坏	①3.6 ②14.1	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	暗 褐 色 良 50%
2－4	土師坏	①3.2 ②12.1	口縁横ナデ、底部ヘラけずり	粗	茶 褐 色 良 10%

Ⅳ まとめ

今城遺跡で検出された２軒の住居跡は、その規模・形態に特長があり、この時代の研究に遺物を含め好資料になるものと考えられる。

Ｈ－１号は規模の大きいことに加え、出土遺物中の銅製品の存在を考えあわせると集落中の主たる家の存在とも考えられる。

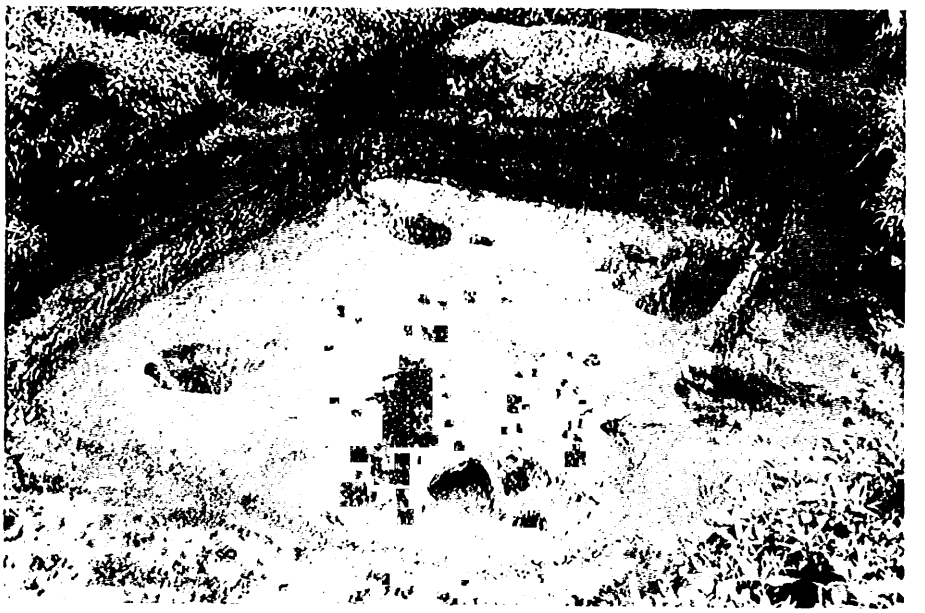
同様の住居跡が近接した堤町で検出されていることは、この時期の住居跡を含めた集落の構成についての研究を進めるものと考えられる。



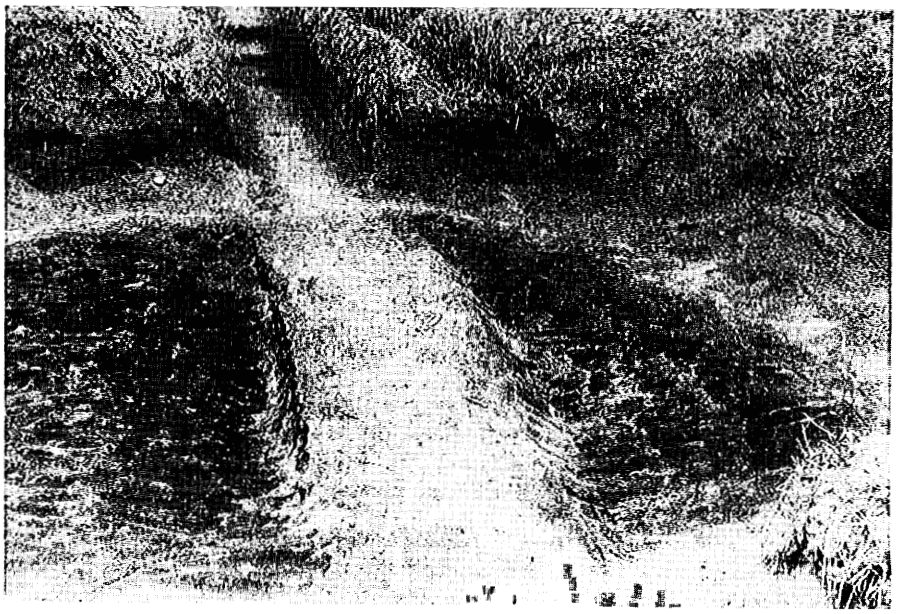
今城遺跡全景(西より)

H－1号 住居跡調査状況

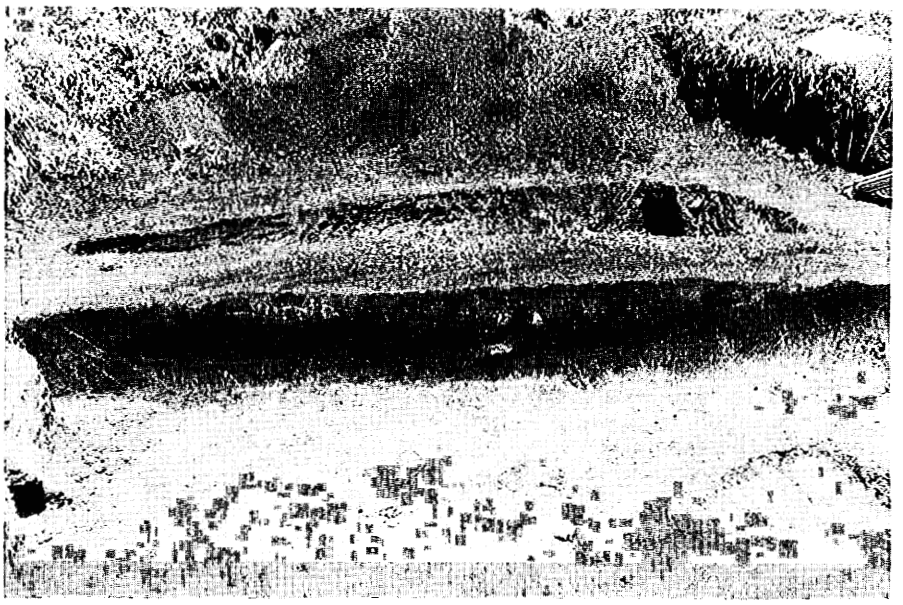
H－1号 住居跡



H－2号 住居跡



H－2号 住居跡
（確認状況）



H－2号 住居跡
（地層断面）

今　城　遺　跡

印刷　平成 4 年 3 月 20 日
発行　平成 4 年 3 月 30 日
発行者　前橋市教育委員会　前橋市大手町 2 －12－ 1
印刷所　上毎印刷株式会社　前橋市天川大島町305－ 1